

『カラマーゾフの兄弟 4』おもな登場人物



アリョーシャ (アレクセイ・フョードロヴィチ・カラマーゾフ)……カラマーゾフ家の三男。
ミーチャ (ドミートリー・フョードロヴィチ・カラマーゾフ)……カラマーゾフ家の長男。
イワン (イワン・フョードロヴィチ・カラマーゾフ)……カラマーゾフ家の次男。
フョードル (フョードル・パウロヴィチ・カラマーゾフ)……殺されたカラマーゾフ家の父親。
スメルジャコフ……カラマーゾフ家の下男で料理人。イワンに深く心服する。
ゾシマ……町の修道院の長老。慈愛にみちた高德の人物。アリョーシャに遺訓を与え、死去。
グルーシエニカ (アグラフェーナ・スヴェトローワ)……フョードルの死後、ミーチャと愛し合う。
カテリーナ (カテリーナ・ヴェルホフツェワ、愛称カーチャ)……ミーチャの元婚約者。

DIC
2494p

DIC
216p

カラマーゾフの兄弟4

しおり (表面)

グリゴリー……カラマーゾフ家の召使。裁判で重要な証言をする。マルファはその妻。
ホフラコワ夫人……町の裕福な未亡人。自由奔放な発言でミーチャを混乱させる。
リーザ (リーズ)……ホフラコワ夫人の娘。アリョーシャと婚約したが、いまは解消。
イリュエーシャ……ミーチャに侮辱されたスネギリョフ大尉の息子。肺病で死の床にある。
コーリャ・クラソトキン……自称「社会主義者」の少年。愛犬ペレズヴォンを厳しくしつける。
ラキーチン……出世志向の神学生だが、じつは無神論的合理主義者。グルーシエニカの従兄弟。
フェーニャ (フェドーシア)……グルーシエニカが暮らす、モローゾワ家の陽気な女中。
ゲルツェンシトウベ……ドイツ出身の医師でこの町に住み、人々に敬愛される。
イッポリート……頭脳明晰な検事補。肺病をかかえる。「心理学の名手」とされる。
フェチュコーヴィチ……招かれてモスクワから来た、「天才的」な弁護士。

DIC
2494p

DIC
216p

カラマーゾフの兄弟4

しおり (裏面)